



(証券コード:4566)

株式会社LTTバイオフーマ
2010年3月期中間決算説明会



Life science & Transfer Technology

2009年11月6日

I) 2010年3月期上半期の総括

II) 2010年3月期中間決算の概要

III) 2010年3月期の見通し

日本発、世界に冠たるバイオベンチャーでありたい。


経営理念

- ▶ 画期的な新薬・医療技術の開発で人類の福祉と健康に貢献する
- ▶ 日本の生命科学技術および産業の活性化に寄与する
- ▶ 常に時代の最先端を目指す


I) 2010年3月期上半期の総括

1. 連結・単体ともに損益黒字化を実現
2. 筆頭株主の異動と北京泰徳製薬との資本業務提携
3. AS-013のライセンスアウト
4. PC-SODがNEDOの助成事業に採択
5. EIP事業の本格展開

1. 連結・単体ともに損益黒字化を実現

 連結売上高**42**百万円、四半期純利益**170**百万円
創薬事業におけるライセンスアウト、EIP事業での売上増加、北京泰徳製薬からの受取配当金収入等が寄与し、連結・単体ともに損益黒字化を実現。

2. 筆頭株主の異動と北京泰徳製薬との資本業務提携

 北京泰徳製薬との更なる連携強化へ
北京泰徳製薬への株式移動が完了し、新たに同社が**19.20%**保有の筆頭株主になるとと共に、同社との資本業務提携を開始し、技術支援や人材交流を図るなど一層の協力関係強化へ。

3. AS-013のライセンスアウト

 **ライセンスアウト実現による一時金収入の獲得**

北京泰徳製薬へのライセンスアウトの実現により一時金収入を計上。今後の研究開発の進展によりマイルストーンやロイヤリティによる一定の収益を見込む。

4. PC-SODがNEDOの助成事業に採択

 **公的機関による支援のもと研究開発が大きく前進**

PC-SODの吸入投与に関する研究がNEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)のイノベーション推進事業に採択。助成金の獲得等により研究開発進展に大きく寄与。

5. EIP事業の本格展開



顧客開拓の進展と販売提携による販路の拡充

インターフェックスへの出展や積極的な営業活動により大手・中堅製薬企業を中心に顧客の開拓が進むとともに、大手打錠機メーカーや商社との販売提携等により販路を拡充。

Ⅱ) 2010年3月期第2四半期決算の概要

1) 連結損益の概要



(百万円、%)

	2009/3 2Q 実績	2010/3 2Q 実績	増減率
売上高	621	42	△93.1
創薬事業	18	33	83.3
EIP事業	—	9	—
調剤薬局事業	603	—	—
一般管理費及び販売費	612	262	△57.2
営業利益	△444	△227	—
営業外損益	221	388	75.8
経常利益	△223	161	—
特別損益	104	10	△90.4
四半期純利益	△13	170	—

販売費及び一般管理費の主要費目

(百万円、%)

一般管理費及び販売費	2009/3 2Q 実績	2010/3 2Q 実績	増減率
研究開発費	162	86	△46.8
支払手数料	232	108	△53.2
給与手当	83	15	△81.6

【前期固有の経費計上要因】

- ▶ 前回実施した特発性間質性肺炎を適応症とするPC-SOD第Ⅱ相臨床試験費用を計上
- ▶ 訴訟対応に係る弁護士費用等を計上

【当期における経費削減要因】

- ▶ 人員削減、組織の再構築により人件費を大幅削減
- ▶ 新本社への移転による賃料の削減

- ✓ 前期に連結子会社であった(株)ソーレの全株式を譲渡したため売上高が減少
- ✓ 創薬事業においてライセンスアウト実現による契約一時金収入を計上し売上高が前年比83.3%増加
- ✓ 販管費の大幅圧縮、受取配当金収入等により、四半期純利益は大幅増の170百万円となり黒字化を達成

2) 資産の概要

(百万円、%)

	2009/3 2Q実績		2010/3 2Q実績		前年同期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減	増減率
流動資産	803	52.1	996	60.2	193	24.0
現金及び預金	752	48.8	913	55.2	161	21.5
固定資産	738	47.9	658	39.8	△79	△10.8
機械装置	35	2.3	67	4.1	31	87.6
長期預金	300	19.5	300	18.1	0	0.0
資産合計	1,541	100.0	1,654	100.0	113	7.3
負債合計	278	18.1	221	13.4	△57	△20.5
純資産合計	1,262	81.9	1,433	86.6	170	13.5
株主資本	1,262	81.9	1,433	86.6	170	13.5
負債純資産合計	1,541	100.0	1,654	100.0	113	7.3
自己資本比率	81.9	—	86.6	—	4.7	—

- ✓ 充分な手元資金と、無借金経営による高い自己資本比率を維持
- ✓ EIP事業に係る設備投資のため機械装置が37百万円増加し67百万円となる

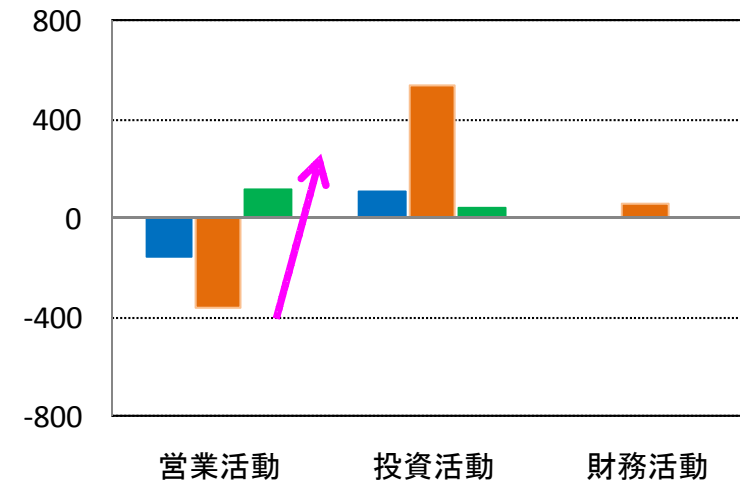
3) キャッシュ・フローの概要

(百万円)

	2009/3 2Q実績	2010/3 2Q実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△154	117	272
投資活動によるキャッシュ・フロー	105	44	△60
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—
現金及び現金同等物の増減額	△49	161	211
現金及び現金同等物の期首残高	411	647	235
現金及び現金同等物の期末残高	361	808	447

キャッシュ・フローの推移

(百万円) ■ 2009/3 2Q ■ 2009/3 ■ 2010/3 2Q



- ✓ 営業活動によるキャッシュ・フローが大幅改善、プラス転換を達成し117百万円となる
- ✓ 本社移転による敷金回収のため投資活動によるキャッシュ・フローが44百万円となる
- ✓ 現金及び現金同等物の期末残高は、447百万円増の808百万円となり十分な手元資金を確保

Ⅲ) 2010年3月期の見通し

1) 創薬事業における重点施策①



●「PC-SODの吸入による投与」の研究開発推進

- ➔ NEDOの助成事業に採択され研究開発開始へ
 - ✓ 治験開始に向けた体制構築とプロトコルの策定
 - ✓ 動物実験による前臨床試験の実施
 - ✓ 第 I 相臨床試験に向けた準備と試験開始
 - ✓ 吸入投与のライセンス活動に向けた準備

NEDO「イノベーション推進事業」について

NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構): 経済産業省を主務省とする、日本の産業技術とエネルギー・環境技術の研究開発及びその普及を推進する国内最大規模の中核的研究開発実施機関

- ▶ 日本を代表する大手企業からベンチャー企業まで258件の応募の中から150件が採択
- ▶ 2年間で最大3億円の助成金が交付(助成期間:平成21年8月14日～平成23年2月28日)

● 研究開発の推進とライセンス活動の強化

➡ 創薬パイプラインの研究開発推進

- ✓ 北京泰徳製薬におけるPC-SOD及びASO-013の開発支援
- ✓ ナノPGE1、NSAID等の基礎研究推進

➡ ライセンス活動の強化と共同研究の実現

- ✓ 国内外企業へのライセンスアウトの実現
- ✓ 公的機関や製薬企業との提携、共同研究の実現

●さらなる顧客開拓と受注拡大及びEIP技術の応用

➡ EIP製品の営業強化と受注の拡大

- ✓製品の試作依頼から本格採用の獲得へ
- ✓販売提携による販路を活かしたさらなる受注の拡大

➡ EIP技術の応用による多分野への展開

- ✓スポーツ、工業用途等他分野でのEIP技術の製品化
- ✓助成の獲得等による研究開発の推進

● 管理体制の強化と法令遵守の徹底

➔ コンプライアンスの徹底等による信用強化

- ✓ 東京証券取引所、証券会社との連携強化
- ✓ 金融機関、投資家とのコミュニケーション強化
- ✓ 各種メディアとのコミュニケーション強化
- ✓ 積極的な情報開示、情報発信の励行

東京証券取引所自主規制法人より講師を招聘し、全社コンプライアンス研修会を実施、法令遵守に係る意識向上に積極的に取り組む

● 上場に関する猶予期間の解除

- ✓ 東証及び幹事証券会社との連携強化
- ✓ 収益構造の改善上場を確実に維持する



確実な上場の維持

● 訴訟への対応とその解決

- ✓ SP&W・アスクレピオス投資事業組合3号及び、(株)アイロムホールディングスからの提訴について、当社に賠償責任は全くないとの立場から法廷で適切に対処し、解決を目指す

5) 2010年3月期の連結業績見通し

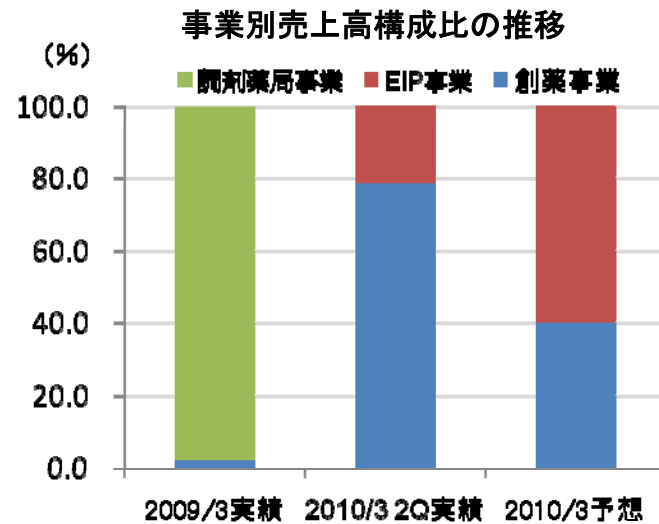
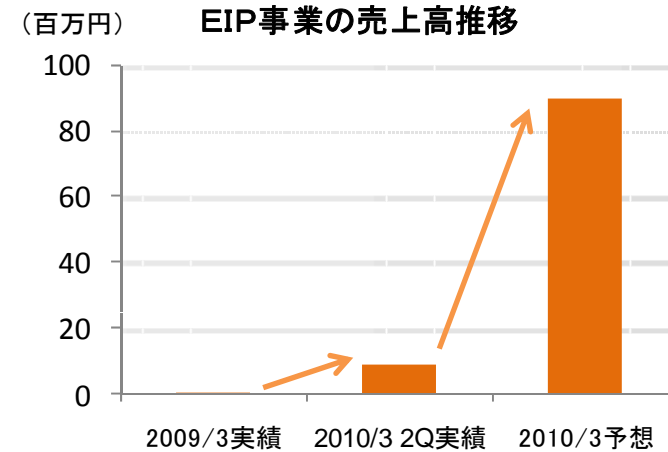
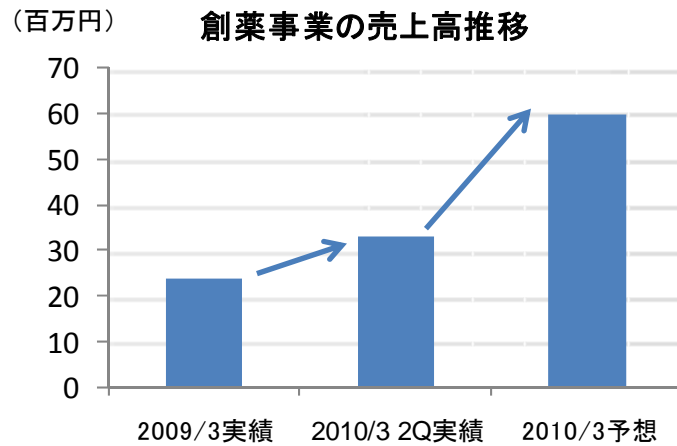


(百万円、%)

	2009/3 実績	2010/3 2Q 実績	2010/3 予想	増減	前年同期比
売上高	1,261	42	150	△1,111	△88.1
創薬事業	24	33	60	36	150.0
EIP事業	—	9	90	—	—
調剤薬局事業	1,236	—	—	—	—
営業利益	△907	△227	△401	506	—
経常利益	△708	161	3	711	—
当期純利益	△14	170	12	26	—

- ✓ 事業の進捗は概ね計画通りであり通期業績は期首予想の通り
- ✓ 連結損益および営業キャッシュフローは黒字化の見通し

6) 2010年3月期の連結業績見通し



- ✓ 本業回帰による創薬、EIP事業への集中
- ✓ 更なるライセンスアウト実現による創薬事業の収益増大
- ✓ 順調な受注獲得により通期に向けたEIP事業の売上増大
- ✓ EIP事業の拡大による安定的なキャッシュフローの創出

